

令和6年度

事業計画

社会福祉法人 品川総合福祉センター

令和6年度 事業計画

目 次

法人事業計画（全体）	2
法人本部	3
事務局地域福祉課	4
【高齢者事業所】	
かえで荘	5
品川区立中延特別養護老人ホーム	6
品川区立八潮南特別養護老人ホーム	7
品川区立グループホーム八潮南	8
品川区立中延在宅サービスセンター	9
品川区立八潮在宅サービスセンター	10
品川区立大井在宅サービスセンター	11
品川区在宅介護支援センター(中延・八潮・大井・大井第二)	12

【障害者事業所】	
かもめ園 知的部門	13
かもめ園 身体部門	14
サンかもめ 生活介護	15
品川区立心身障害者福祉会館（生活介護）	16
品川区立心身障害者福祉会館（自立訓練）	17
品川区旗の台障害児者相談支援センター	18
障害者計画相談支援事業所（中延・大井第二・八潮）	19
品川区障害者地域活動支援センター	20
福祉工場しながわ 就労継続支援A型	21
鮫洲なぎさの家 共同生活援助	22
さつき 就労継続支援B型	23

【保育園】	
八潮中央保育園	24
品川区立八潮北保育園	25

【公益事業】	
八潮わかくさ荘	26
大井倉田わかくさ荘	27
大井三丁目高齢者憩いの場	28

令和6年度 法人事業計画

1. 基本方針

社会福祉法人品川総合福祉センターは、法人理念に基づき「地域における福祉の発展・充実」を使命とし、安定的・継続的・発展的経営に努めるとともに、多様な福祉課題に柔軟かつ主体的に取り組む。

2. 重要課題

- (1) 第二次未来創造図（中長期計画）を基に、実現に向けた具体的な取組みを継続する。第二期中期経営計画を中心に課題解決に向けた取組みを計画的に進める。
- (2) 第一期中期経営計画の人権擁護、人材確保、収支改善の3テーマについて、未達成の課題、新たな課題を整理し、引き続き具体策を講じる。
 - ①利用者の尊厳の尊重の見地に立ち、利用者支援や職員モラルに関する問題点について職員一人ひとりの自覚を促し、専門性の高い支援と対人援助専門職としての人権意識及び倫理観の醸成を進め、虐待ゼロを目指す。
 - ②職場環境改善のため、働き方改革基本方針に引き続き取り組む。ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場を作り人材の確保に繋げる。職員育成を重視し、新任職員、中堅職員、リーダー候補者の育成に努める。
 - ③経営状況を鑑み各施設単位で稼働率の確保、コスト削減に徹底して取り組む。部会では各事業所の収支状況を把握し、施設ごとの課題達成を支援するほか、法人全体で共通する経営課題について対策を講じる。
- (3) 人権擁護、コンプライアンス維持の観点で法人内のチェック機能を強化する。
- (4) 人材確保対策として採用方法の改善など具体的な対策を立てる。
- (5) ICT技術導入は、法人標準モデルを基本に各施設単位で進める。八潮南複合施設の検証を継続し、結果を情報共有することで法人内のICT導入を進める。
- (6) BCPについて、法人全体、各施設単位、および事業所連携の内容を精査・改定し、運用を開始する。
- (7) 新型コロナを含む感染症全般の最新情報を収集し、適切な感染防止対策の下、利用者の生活の質を確保し、職員が安心して業務に専念できるよう「感染対策委員会の開催」「指針の整備」「研修及び訓練の実施」を進める。
- (8) 法人事業の理解を進めるため地域への発信力を強化し、品福ブランドを確立する。
- (9) 区立八潮南特別養護老人ホーム増改築計画に協力し、区と共に計画案の作成、検討に取り組む。
- (10) 福祉工場プチレーブ店舗移転（令和6年11月期限）に伴う移転先を検討する。
- (11) 区立中延複合施設の大規模改修について区と協議し準備する。

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 法人全体

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年間計画	●人権擁護(法人全体で虐待0への取組み)												
	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	人権擁護・虐待防止法人研修	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	委員会の開催	
	就職フェア参加			就職フェア参加			学校訪問を開始	就職フェア参加			就職フェア参加		
	新規採用職員による採用プロジェクト									採用活動評価会の実施			
	●品福ブランドの確立に向けた取組み												
HP改定、広報誌リニューアル													
各種催しへの参加				地域夏祭りへの参加			法人紅葉まつり等、地域開放事業			小中一貫校福祉講座			
●適切な感染防止対策													
委員会の開催													
指針の整備	研修及び訓練の実施						研修及び訓練の実施			研修及び訓練の実施			
●収支改善													
経営会議			四半期状況確認				中間状況確認				年間状況確認		
稼働率													
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考	
●人権擁護(法人全体で虐待0への取組み) ・法人全体研修の実施 ・虐待防止委員会の運営							・効果測定等、各事業所での振り返りを人権部会・虐待防止委員会で検証し、情報提供や11月の研修内容に反映させる ・各事業所での利用者特性に合わせた振り返りの機会を設定し、全体の状況を四半期ごとに報告する						
●人材確保 ・大学、専門学校への勧誘活動(訪問や案内の実践) ・実習生への法人としての誘致活動 ・職員紹介制度の本格的活動							・事務局及び各郡管理者・各事業所OB同行による学校訪問を9月以降に実施する ・実習生反省会時に法人事業説明、勧誘を徹底する ・若手職員を中心に、採用アイデア検討会を実施する						
●品福ブランドの確立に向けた取組み ・HPや広報誌、学校や各種催しへの参加によるコマーシャル活動 ・地域が求める活動のリサーチ							・各施設の強みを広報や催しを通じて地域に発信していく ・各拠点での自治会などの催しに積極的に参加する ・施設公開・入所体験・介護教室・職員体験等の催しを実施する企画を上半期にまとめ、下半期に順次実施する						
●適切な感染防止対策 ・感染の防止と蔓延を防ぐ取り組みの周知と対策の実施							・各拠点の取り組みや成功事例について、法人全体で共有する ・必要物品のストック状況や施設間の情報共有を進める						
●収支改善 ・入所事業所の入所対策、促進の実施 ・経費削減につながる削減計画の策定							・毎月の経営会議で状況の把握と対策を確認し、迅速な対応を行い、経費削減対策も同時に進めていく ・地域のケアマネに向けて、施設情報を積極的に発信する						

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 地域福祉課

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3								
年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成(地域福祉について職員の意識を高める) 新任研修等で紹介・説明 ●地域における公益的な取組みの展開 情報収集・企画検討・関係者連絡調整 ●地域社会への福祉啓発と福祉教育 啓発講座検討 ●広報活動 随時HP「お知らせ」情報UP 改新広報誌159号発行 ●地域とのつながり・地域交流 																			
				期日未定:他法人の例に学ぶ研修等																
	情報収集・企画検討・関係者連絡調整																			
	啓発講座検討			こどものつどい			夏体験ボランティア		中学校福祉講座		小学校福祉講座		講座打合せ		中学校福祉講座		講座打合せ		中学校福祉講座	
	随時:学校からのオーダーで福祉講座実施																			
稼働率	随時HP「お知らせ」情報UP				各施設SNS等推進															
	改新広報誌159号発行				広報誌160号				広報誌161号				広報誌162号							
各種まつり実行委員会開始							八潮まつり参加		しなふく紅葉フェスタ			目黒クリスマス参加			八潮美化運動					
毎月(手話舞踊サークル・地域生け花サークル開催)				・随時地域からの声掛けに対応				ふくしまつり参加		(北避難所祭り)										
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考								
<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 ・地域福祉の重要性について、必要な情報を学び、法人内役職間で共有する ・一般職に向けても、地域福祉課の事業紹介等を行い、地域福祉を考える機会を作っていく 							<ul style="list-style-type: none"> ・地域公益的取組みの責務を法人の共通認識とするため、他法人の地域公益活動を学ぶ機会を上半期に設ける ・施設見学も含めて調整する 					<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵の会施設長と交渉中 								
<ul style="list-style-type: none"> ●地域における公益的な取組みの展開 ・地域ニーズを収集・整理・分析し、地域の課題に向き合い、法人としてできることを模索する ・法人本部の社会資源を活用し、地域団体と連携し、地域の役に立てることを計画する ・地域関係団体等と情報交換等の機会を作るなど、関係性を深め、連携を図っていく 							<ul style="list-style-type: none"> ・限られた職員体制の中で、継続・安定した事業の運営を行うため、情報分析等に力を入れ、効率的に業務を進める 													
<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会への福祉啓発と福祉教育 ・地域社会の福祉への理解を促進するため、必要な事項についての福祉講座の開催と、福祉教育の機会を設けていく 							<ul style="list-style-type: none"> ・福祉啓発・講座のテーマ選択については、地域のニーズを考慮し、上半期に情報収集を行う 													
<ul style="list-style-type: none"> ●積極的な広報活動 ・品福ブランド確立へつながるよう、上記の取組みの他、地域とのつながりだけでなく、施設の強みや活発な活動を紹介し、広報活動を行う ・しなふくニュースを改新し、見やすくわかりやすくし、新しい視点での記事を入れ、人材確保や稼働率向上にもつながるような広報誌にしてい 							<ul style="list-style-type: none"> ・各施設で実施するSNS・施設ページ更新について、施設内の広報に対する意識を高める必要があるため、5月に各施設の広報担当者と広報推進のための共通認識が持てるよう確認していく ・事業所での対応を進めるため、各担当者を4月に決める 													
<ul style="list-style-type: none"> ●地域とのつながり・地域交流 ・地域とのつながりや交流の機会を通し、地域住民と相互理解と信頼関係を築いていく 							<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体のイベントを地域交流に有意義な機械と捉え、規模や内容の充実を図る ・そのために、法人職員全体の理解を深める 													

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 かえで荘

目標稼働率 96.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 感染予防訓練	介護研修(食事)	介護研修(移乗) 交換研修実施	介護研修(排泄)					感染予防訓練2 交換研修実施		感染予防研修3	
	●職員連携 合同会議実施		フロア内研修				フロア間異動					
	●ICT導入 課題抽出	機器選定		補助金申請		シミュレーション	活用方法の検討		補助金決定	機器導入工事	導入インテーク	
	●ケアの充実 地福課と打合せ		サークル1開始			サークル2開始			サークル3開始			
	●収支改善 入所調整会議	シート活用研修			入所調整会議			入所調整会議			入所調整会議	
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 介護技術研修:食事介助、移乗介助、ポジショニング、感染予防訓練、排泄について担当委員会主催で開催 中堅職員育成:交換研修							・研修内容により必要度の高い職員の参加を配慮する ・周知について動画視聴等もを取り入れ全職員に周知徹底する ・他部署と交換研修を実施し支援方法等振り返りの機会を作る					
●職員連携 同一フロア:北・南棟の専属化の撤廃 フロア間:4・5階合同の会議を実施し、連携方法の確認、年度途中の職員フロア間異動 多職種連携:カンファレンス実施方法の検討							・同一フロア内での職員の連絡方法が課題であり、ICT活用を含め、手法を検討する ・職員への情報周知方法について、見聞録掲示板の有効活用を進める					
●ICT導入 導入機器の選定、補助金申請、導入時のシミュレーション、活用方法の詳細の打ち合わせ、職員周知をすすめる							・ICT導入の目的の明確化と職員への周知を徹底する ・導入時のシミュレーションをしっかりと行い、職員が主体的積極的に取り組めるよう計画的に行う					
●ケアの充実 コロナ禍で制限してきた外出支援やサークル活動等ボランティアの受け入れを再開し復活させる 個別ケアの充実について「〇〇さんの暮らし方シート」を活用し職員間の情報共有を進める							・ボランティア募集については、地域福祉課と連携し、外出支援やサークル活動等で積極的に受け入れを行う ・シートをカンファレンスで活用し個別ケアの意識を浸透させる					
●収支改善 稼働率確保:特養本体→入所施設内入所調整会議の定期開催 ショートステイ→リピーターの確保(空床の積極活用) 支出調整:派遣職員の非常勤化							・長期入院者の扱いとして、一定期間経過後に部屋を活用出来るよう入所調整する ・派遣職員との面談等でコミュニケーションをとり意向を確認する					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 中延特別養護老人ホーム

目標稼働率 ホーム96%・SS95%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年間計画	●人材育成⇒人材育成を重視する(1年目・虐待防止・現任研修:毎月 2年目研修:年8回 3年目研修:年7回 交換研修:毎週)												
		委員会	チーム検討		委員会	チーム検討		委員会	チーム検討	委員会	向上発表会 実践発表会	チーム検討	
	●価値観の共有を行う⇒「何のために、誰のために、何を大事にしてケアを行うのか」等、全職員で入所者の権利擁護やケアに関する価値観を共有する												
	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議	役員会議・フロア会議
	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会
●ICT・介護機器を活かしたケアの推進													
移乗リフト稼働	委員会	研修		委員会	委員会		委員会	研修	委員会			委員会	
●大規模改修													
	複合施設PJ (品川区との打ち合わせが入る予定)			複合施設PJ			複合施設PJ				複合施設PJ		
●収支改善													
多職種会議		ショートステイ会議		多職種会議		ショートステイ会議		多職種会議		ショートステイ会議		ショートステイ会議	
稼働率													
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考	
●人材育成 ・経験年数に合わせた法人研修・事業所内での現任研修の他に、交換研修・オンライン研修を実施し知識と技術の向上と習得に努める ・新任職員や経験年数の浅い職員に対しては、OJTを行う							・研修時間の確保⇒勤務の人員配置を5月中に役職者会議で整理し時間を確保する ・OJTを行う職員の育成⇒4月はリーダー職も同行してフォローし、5月～9月の間にOJT担当を対象とした研修を実施する						
●価値観の共有 ・役職会議で共有した「何のために、誰のために、何を大事にしてケアを行うのか」等、入所者の権利擁護やケアに関する価値観を各フロア会議で共有する ・虐待防止委員会で虐待防止および不適切なケアについて意見交換をする							・全職員へ確実に周知する方法として、朝礼での発信と掲示板やIPADでの共有を上半期中に実施する ・共有する事への振り返りについては、正確で効率的な振り返り方法を上半期中に各フロア会議で検討し実施する						
●ICT・介護機器を活かしたケアの推進 ・ICTおよび介護機器の機能と操作方法を全職員で研修等を通し習得する ・ICTおよび介護機器を活かしたケア・サービスの検討をすすめる							・ICTおよび介護機器の指導者の育成⇒上半期中に移乗リフトメーカーによる研修を実施する ・ICTおよび介護機器の充実化⇒年度を通して製品情報を収集及びメーカー主催の勉強会を実施する						
●大規模改修 ・より良いサービスに繋がるよう、現場スタッフの意見を反映させるプロジェクトチームを立ち上げる ・工事を伴うICT関連機器の導入も大規模改修に合わせて導入出来るよう準備を進める ・施設利用者だけでなく、地域の拠点となることを想定する							・4月に複合施設プロジェクトメンバーを選出し、5月より検討会を開始する ・上半期は情報収集、後期に具体案をまとめる						
●収支改善 ・生活相談員を中心に入所調整を迅速に行い、空床を減らし目標稼働率を確保する ・緊急ショートステイを積極的に受け入れる事でショートステイの目標稼働率を確保する							・入所調整開始から入所に至るまでの短期間化を目指す ・上半期中に短期間化を委員会で検討し下半期より実施する						

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 八潮南特別養護老人ホーム

目標稼働率 96.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成⇒採用から3年目までの育成プログラムの構築。ベテラン職員のスキルアップ。 チーム検討											
	●災害リスクへの備え BCPへの周知											
	●増改築への対応 区との連携・協力											
	●人権擁護 指針の周知											
	●収支改善⇒目標稼働率の確保 入所調整会議											
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
●人材育成 ・育成プログラムの見直し、構築(チーム編成し検討をする) ・経験年数ごとの役割検討 ・明確なスキルアップ・キャリアアップの提示							・フロア単位の育成ではなく、偏りが出ないよう、全体の育成プログラムを10月までに素案として作成する ・4月の委員会編成において役割分担を提示する				活用開始は、次年度からを予定	
●災害リスクへの備え ・新しく策定したBCPのマニュアルを周知し、その後研修をおこなう(研修・訓練は年2回以上) ・緊急時や災害に備え、施設内外の交換研修を実施する ・他フロアの職員が利用者の状況が素早くわかるようなしくみを作る							・半期を目安にフロア異動・交換研修をおこなう ・書類様式や業務内容の統一を図ることで、どのフロアに応援に行っても、スムーズに入れる事を目指す ・統一作業は4月から7月もかけて進める					
●増改築への対応 ・品川区と協力・連携しながら、増改築が円滑に進むよう調整を図っていく ・増改築の準備が始まる前に、入居者家族へ説明会を開く予定(時期は工事の予定にあわせて)							・品川区からの情報収集に合わせて、利用者や家族に対して情報を提供する					
●人権擁護 ・昨年度策定した虐待防止の指針の周知を図る ・虐待の芽チェックリストや、委員会の取組みの中で、虐待の芽を摘む。不適切ケアを考える							・同じ方法を繰り返すだけでは、効果的とはいえないので、違うアプローチの方法も考えていく ・4、5月に虐待防止指針の周知をおこなう					
●収支改善 ・目標稼働率の確保のために、相談員を2名体制にし入所調整機能を高め、空床を限りなく減らす ・ペットコントロールを迅速に行う ・利用者の入院や体調不良を早期に発見し、早期対応ができるようICT機器(見守機器)の更なる活用法を検討する							・入所調整に関する打合わせを名簿開始時と終了前におこない入所調整が円滑に進むよう共有する ・ICT委員会において、テクノロジーの活用による5つの取組みのデータを取り、その効果を検証する				ICT委員会の取組み 4～5月に方法を取り決め、2月までモニタリングしながらデータをとる	

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 グループホーム八潮南

目標稼働率 98.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	<p>●人材育成⇒職員の資質向上</p> <p>チーム検討 チーム検討 非常勤研修 認知症研修 委員会 チーム検討 チーム検討 非常勤研修 認知症研修 委員会</p>											
	<p>●日常生活を支援する</p> <p>感染症委員会 研修・訓練 振り返り 振り返り 感染症委員会 研修・訓練 振り返り 振り返り</p>											
	<p>●増改築への対応</p> <p>区と連携・協力 区と連携・協力 区と連携・協力 区と連携・協力 (家族への説明) 区と連携・協力</p>											
	<p>●人権擁護</p> <p>指針の周知 指針の周知 研修 委員会 委員会 研修 委員会</p>											
	<p>●収支改善⇒目標稼働率の確保</p> <p>活用法の検討 活用法の検討 活用法の検討 活用法の検討 活用法の検討 活用法の検討 活用法の検討</p>											
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
<p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤育成プログラムの構築(チーム編成し検討をする) 非常勤や職員の経験年数ごとの役割検討 明確なスキルアップ・キャリアアップの提示 <p>●日常生活を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症のまん延を予防する⇒マニュアルの見直し、定期的な研修とシミュレーションの実施 専門職として根拠を持った関わりの実践⇒定期的に振り返りの機会をもつ 							<ul style="list-style-type: none"> 育成プログラムは10月を目的にたたき台を作る 非常勤化を推奨する上でも、非常勤のスキルアップは必須の課題→6月と11月に非常勤研修を実施する 					
<p>●増改築への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 品川区へ協力・連携しながら、増改築が円滑に進むよう調整を図っていく 増改築の準備が始まる前に、入居者家族への説明会を開く予定。(時期は工事の予定にあわせて) 							<ul style="list-style-type: none"> 区立八潮南特別養護老人ホーム増改築計画に協力し、区と共に計画書の作成、検討に取り組む 品川区からの情報は、速やかに利用者や家族にお伝えする 					
<p>●人権擁護</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度策定した虐待防止の指針の周知を図る 虐待の芽チェックリストや、委員会の取組みの中で、虐待の芽を摘む。不適切ケアを考える 							<ul style="list-style-type: none"> 作成した虐待防止の指針について4~5月にかけて周知する 研修の中で不適切ケアをテーマにおこなう(6月と11月) 					
<p>●収支改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期入院者を減らすため日々の健康や様子を観察し、体調不良を早期発見・早期対応につなげる ICT機器(見守機器)の更なる活用法も検討する 定期的に申込者と連絡をとり、急な空きが出た際に、候補者として常に準備しておく 							<ul style="list-style-type: none"> 定期的に申込者と連絡をとり、急な空きが出た際に、候補者として常に準備しておく ICTの活用について検討する。活用可能な機器のデモンストレーションを1回以上おこなう 					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 中延在宅サービスセンター

目標稼働率(一般/認知) 77.0% 60.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
年間計画	●人材育成 ⇒ 選ばれるサービス提供のために 事業計画の説明													
	交換研修スタート		認知症基本法	アセスメント①	複合施設全体研修			アセスメント②					交換研修終了	
	●地域とともに ⇒ 地域の福祉拠点としての役割を果たす (毎月 コミュニティカフェ実施)													
						地域防災	旗が岡例大祭 なかのぶ会	くつろぎ祭り	避難所防災	餅つき			地域防災	なかのぶ会
	ボランティア委員会				介護等体験受入 ボランティア委員会				ボランティア委員会				ボランティア委員会	
●福祉啓発 ⇒ 福祉のお仕事を知って下さい！														
●大規模改修 ⇒ より良いケアに向けた計画 (品川区との打ち合わせが入る予定)														
複合施設PJ				複合施設PJ				複合施設PJ				複合施設PJ		
●収支改善 ⇒ 収入を増やす														
民間居宅へ営業		収支状況の説明				民間居宅へ営業		収支状況の説明		民間居宅へ営業				
稼働率														
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考			
● 人材育成 ・利用者個々に合わせたサービスを提供するため、アセスメント力の向上を図る ・認知症基本法の目的及び基本理念に基づき、事業所として何を実践すべきかを学ぶ ・他部署との連携により、広い視野で利用者サービスを提供する							・外部研修、事業所内での現任研修を企画、出来るだけ多くの職員が参加出来るよう、課題型研修及び超過勤務で実施する ・在宅介護の視野を広げるため、ケアマネ業務にも同行する				超過勤務手当の発生は、人材育成のため、必要経費と考える			
● 地域とともに ・地域と協働した取り組みを通し、地域の一員であり続けることが出来るよう支援する ・地域開放事業を実施し、施設の存在をPRL地域の福祉拠点として来館できるよう交流を図る ・ボランティアの受け入れを積極的に行う(特に高齢者層のボランティア受入れに力を入れる)							・季節毎に、地域の感染状況を確認し、交流の方法を決定する ・より多くの方に参加して頂けるよう、複数の発信手段を取る ・地域の実情に合わせた活動を行うため、半期毎に評価を行う				身近なテーマで交流会を年2回開催 (「施設の選び方」や「リフレッシュ」「体に良い食べ物」等)			
● 福祉啓発 ・福祉を志す学生が減少しているため、福祉の仕事の楽しさを知ってもらい、将来の人材を発掘する ⇒教員資格取得のための介護等体験実習、小中学生の職場体験、学生のボランティア体験を積極的に受け入れる							・新規受入校の開拓、受入れ時のスムーズな対応のため、担当職員を選出し、第一四半期に近隣の学校とコンタクトをとる							
● 大規模改修 ・より良いサービスに繋がるよう、現場スタッフの意見を反映させるプロジェクトチームを立ち上げる ・工事を伴うICT関連機器の導入も大規模改修に合わせて導入出来るよう準備を進める ・施設利用者だけでなく、地域の拠点となることを想定する							・4月に複合施設プロジェクトメンバーを選出し、5月より検討会を開始 ・上半期は情報収集、後期に具体案をまとめる				品川区の基本設計に合わせ、予定は随時変更させる可能性がある			
● 収支改善 ・収入の確保により安定経営が望めるため、支出の抑制より、収入の確保に努める ⇒サービスの向上が利用者の増加(稼働率確保・向上)に繋がる							・収入確保(利用者獲得)のため、四半期ごとにサービス内容の確認を行う				近隣に大手介護事業所がある			

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 八潮在宅サービスセンター

目標稼働率 76.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年 間 計 画	●人材育成⇒＜専門性の向上＞職員のスキルアップ研修の開催、交換研修の実施												
		研修1		研修2		研修3		研修4		研修5		研修6	
	●新たな加算の取得⇒科学的介護推進体制加算												
	職員研修	データ集積	加算変更届	加算取得									→
	●浴室改修工事計画												
	区との打合せ				区との打合せ								
●イベント													
お花見	菖蒲湯		七夕	変わり湯					柚子湯		節分		
事業説明会	60号棟防災訓練					総合防災訓練			Xmas		総合防災訓練		
●収支改善⇒積極的に加算の取得検討													
			新規加算取得										
保 固 事													
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考		
●人材育成 ・サービス向上のため、他施設との交換研修を実施							・法人内の他事業所との交換研修を全職員が年間1回以上行うため、早期の調整が課題となる ・4月末を目途に調整を進める						
●新たな加算の取得 ・科学的介護推進体制加算を取得するするため、利用者全員のアセスメントデータを集め、PCにデータ入力をしていく							・全員の身長と体重を半年に一度計測する必要がある ・新規契約時や介護度更新の度に主治医意見書を区に申請し、自立度や認知症の度合いのデータを集める						
●浴室改修工事計画 ・令和6年度実施の見直しに伴い、再度区と協議していく							・新たなスケジュールが未確定であるため、情報共有について積極的に区に働きかける						
●イベント ・季節のイベントを実施する ・BCP訓練を実施す							・わさくさ荘を想定した訓練となるため、情報の整理とマニュアルの更新を随時行っていく						
●収支改善 ・科学的介護推進体制加算を取得するが、他にも取得可能な加算(口腔ケア関係加算等)を模索していく							・誰でもアセスメントを可能にするため、アセスメント方法の学習を4月に実施する ・データの集積に時間を要するため、7月を目途に加算の取得の						

令和6年度年間計画進行管理表

様式1

事業所名 大井在宅サービスセンター

目標稼働率 一般80%、認知症対応型41

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年間計画	●人材育成⇒＜専門性の向上＞非常勤職員のスキルアップ研修の開催、常勤職員の生活相談員職育成												
		非常勤職研修 生活相談員業務の訓練		非常勤職研修		非常勤職研修		非常勤職研修		非常勤職研修		非常勤職研修	
	●プログラムの充実												
		脳体カトレーナーCogEvo(コグエボ)の導入 (一人の方に月1回は実施)											
	●加算の取得＜口腔ケア関係加算・ADL維持加算＞												
	ADL維持加算の申請(Barthel Index測定の測定が必須で、機能訓練指導員もしくはBarthel Index測定研修を受けた職員が記録)			口腔機能向上加算の取得準備									
●イベント予定													
事業説明会	菖蒲湯		七夕		敬老祝い会		紅葉ドライブ	紅葉ドライブ	初詣ドライブ	節分	ひな祭り		
特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	特別食2回	
●収支改善⇒目標稼働率の確保、新規加算の積極的取得													
	居宅介護支援事業者への訪問(毎月)												
備考													
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考		
●人材育成 ・非常勤職員が3分の2を占めている職場であるため、サービスの質低下防止のため必要な研修を実施する ・リーダー職の業務軽減のため、一般職に生活相談員業務の訓練を実施する							・非常勤職員研修は、短時間勤務の職員もいるため、動画等も活用し全員が情報をえられるようにする。 ・リーダー職の業務軽減のため、5月から一般職に業務訓練開						
●プログラムの充実 ・現在実施しているリハビリプログラムに加え、認知症予防と認知機能のチェックとトレーニングを専門のソフトウェア(脳体カトレーナーCogEvo(コグエボ))を使用する							・新規プログラム導入にあたり、職員の事前研修を5月に実施する						
●新たな加算の取得 ・サービスの質の向上を常に考え、取得可能で効果的な加算を取得していく							・ADLの評価については、Barthel Index測定を概ね3か月に1回程度実施し、入院や退院などの生活環境変化や身体機能変化 があった場合は、その都度評価を行う				・科学的介護情報システム(LIFE)への記録を3か月毎に実施する		
●イベント ・日本人になじみのある季節毎イベントを実施する ・食事に関しても月に2度ほど通常提供している食事よりもランクが上の＜おいしい食事＞を提供することによって、利用満足度の向上を図る							・イベント実施後に参加者にアンケートを実施し、イベント企画に反映させる ・イベントの様子を積極的にHPや地域のケアマネに発信し、新規						
●収支改善 ・居宅介護支援事業所との利用者報告・事業内容報告を毎月実施する ・新たな加算取得によるサービスの質の向上を図る							・△1%の支出削減を目指すため、超過勤務や派遣職員費用の削減を図る						

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 品川区在宅介護支援センター(中延・八潮・大井・大井第二)

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成⇒定期的な職員研修実施、主任ケアマネ資格維持のための定期的な研修受講、リーダー候補者育成											
	毎月の会議にて現任研修実施											
	●コンプライアンス維持のためのケアプランチェック											
	各在宅介護支援センター管理者が他部署の書類チェックを実施											
	各職員による業務報告書を毎月提出											
	●BCP計画訓練と更新											
	BCPマニュアルの完成(居宅介護支援事業者は猶予期間が7年3月末)											
	BCP訓練 BCPマニュアル内容検討											
	●会議											
	支援センター会議毎月											
4在支管理者(リーダー)会議												
地域ケア会議毎月												
●収支改善												
予算作成時に立てた件数目標を目指してゆく												
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
●人材育成 ・在宅介護支援の標準化を図るべく開始された、「適切なケアマネジメント手法」を職員全員が身に付けるため、基本ケア研修と疾患別ケア研修を受講する。また、ケアマネジメントスキルアップのための研修を随時受講するとともに、主任ケアマネ更新に必要な研修についても計画的に参加する							・限られた人員の中での研修参加がスムーズに実現するよう参加調整を計画的に行う					
●コンプライアンス維持のためのケアプランチェック ・各職員がケアプランチェックに必要な書類の整備を行い、管理者およびリーダーがケアプランチェックを実施し、さらに毎月他部署の管理者によるチェックも実施する							・点検を強化するため、管理者に加えて、主任ケアマネジャーなど経験ある職員もケアプランチェックに参加する					
●BCP計画訓練と更新 ・5月末までにBCPマニュアルを完成し、6月に訓練を実施する ・災害時個別避難計画に沿った訓練を実施するとともに、しつと、地域の防災計画を鑑みたBCP計画の更新を随時行なう							・災害時個別避難計画の作成更新が膨大な作業になる事が予想されるため、更新作業の進行管理を徹底する					
●会議 ・運営基準に必要な会議を毎月開催する ・地域ケア会議の定期的な主催する ・中延・八潮・大井・大井第二の各管理者は、毎月会議を開催する							・ケース検討・現任研修等、区からの情報提供が必要な会議を毎月開催する					
●収支改善 ・各ケアマネジャーの上限目標件数を目指す ・超過勤務の削減に努める							・件数の上限を超えないよう調整するとともに、近隣の同法人事業所との業務量(持ち件数)を調整する ・超過勤務の削減のため、事務作業の効率化を図る					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 かもめ園(知的部門)

目標稼働率 95% 85% 100%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 障害者支援施設など支援力育成派遣事業の協力を得て研修を行う。 派遣事業											成果報告会
	●強度行動障害の理解を深め、その方に適切な支援を行う。 福祉カレッジ											
	●ICT機器の有効活用と利用者の安全と業務軽減を推進する 勉強会											
●感染症予防委員会と災害時のBCP訓練と研修を実施する。 委員会開催 BCP研修												
●収支改善 利用者の健康管理と空きベッドを有効活用を行う。 健康診断												
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 障害者支援施設など支援力育成派遣事業の協力を得て研修を行う ・実践をしていくことで支援に対し積極的な意見交換、チームとしての組織力の向上を目指し、各職員が成長できることを目指す							・東京都主催研修を受講するうえで、上半期までに研修課題や内容を決定し、1年間取り組んでいく ・研修を通じて、職員の力量を向上させる事を目的とする					
●強度行動障害の理解を深め、その方に適切な支援を行う ・適切なアセスメントの実施し、構造化により強度行動障害を持った方への支援の実践を行う ・利用者の方の生活が豊かになること、知識を得ることで不適切な支援がなくなることを目指す							・品川区社協主催の強度行動障害研修を1年間取り組む ・準備期間、職員間の意見調整の場等をきちんとスケジュールリングし、福祉カレッジの受講を有意義なものにする ・事業所で共有、実践を進めることで、不適切支援をなくす ・上半期までに、職員が機器の使用を熟知するようにすすめる ・下半期には費用対効果を出す ・インカム使用時の共通ルールを5月までに決定する					・協力企業と連携を強化する
●ICT機器の有効活用と利用者の安全と業務軽減を推進する ・機器を使いこなせるように勉強会を実施する												
●感染症予防委員会と災害時のBCP訓練と研修 ・感染症予防指針の理解を行い、利用者の健康と職員の健康を守っていく ・さまざまな災害を想定した訓練を行っていく							・感染症対策として、隔月の委員会を開催する ・ハード面を含め各種機関の最新マニュアルの入手方法を検討していく					
●収支改善 ・利用者の健康管理の促進を行う ・空きベッドについては、短期入所者へ有効活用を行う							・毎食の食事摂取状況を注意深くモニタリングできるように記録し、モニタリング能力を上半期までに向上させる ・毎月稼働率を各職員に意識させ、稼働率の向上につながる取り組みを年間を通して進めていく					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 かもめ園(身体部門)

目標稼働率 95% 85% 100%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 外部内部研修の受講を推進し、資質向上をする 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修 内部研修											
	●重度高齢化のリスク管理と入浴について検討する 検討会 検討会 検討会 検討会 検討会 検討会 検討会 骨密度測定等 検討会 検討会											
	●ICT機器の有効活用と利用者の安全と業務軽減を推進する 勉強会 勉強会 勉強会 勉強会 勉強会 勉強会											
	●感染症予防委員会と災害時のBCP訓練と研修を実施する 委員会開催 感染予防訓練 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催 委員会開催											
	●収支改善 利用者の健康管理と空きベッドを有効活用を行う 健康診断 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認 収支確認											
稼働率												

事業の概要	執行上の課題および改善策	備考
●人材育成 ・外部内部研修の受講を推進する ・人権擁護に関する研修を積極的に受講する ・各種職員の資格取得を推進する	・年度当初に職員と面接を実施し、受講希望を確認する ・各種職員が希望研修に受講に向け、上四半期までに人員調整を行う ・人権擁護に関する研修を年度当初から適時開催する	
●重度高齢化のリスク管理と入浴について検討する ・浴室の改修を視野に検討会議を開催する ・利用者の骨密度と血管年齢を測定し昨年度比較を行い支援方針を検討する	・年度初めに検討委員のメンバー選出し、下半期までに理想とする浴室を検討する ・下半期は機器導入に伴う浴室の加重確認と費用の問題を検討する必要があるため、関連業者と調整する	・協力企業と連携を強化する
●ICT機器の有効活用と利用者の安全と業務軽減を推進する ・機器を使いこなせるように勉強会を実施する	・上半期までに、職員が機器の使用を熟知するようにすすめる ・下半期には費用対効果を出す ・インカム使用時の共通ルールを5月までに決定する	
●感染症予防委員会と災害時のBCP訓練と研修 ・感染症予防指針の理解を行い、利用者の健康と職員の健康を守っていく ・さまざまな災害を想定した訓練を行っていく	・感染症対策として、隔月の委員会を開催する ・ハード面を含め各種機関の最新マニュアルの入手方法を検討していく	
●収支改善 ・利用者の健康管理の促進を行う。 ・空きベッドについては、短期入所者へ有効活用を行う。	・毎食の食事摂取状況を注意深くモニタリングできるように記録し、モニタリング能力を上半期までに向上させる ・毎月稼働率を各職員に意識させ、稼働率の向上につながる取り組みを年間を通して進めていく	

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 サンかもめ

目標稼働率 85.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成⇒各職員のスキルアップ											
	チーム内検討		現任研修		現任研修			チーム内検討		チーム内検討		チーム内検討
	●人権擁護 指針の周知 委員会		委員会	研修	委員会		委員会	研修	委員会		委員会	
	●日中活動の充実・・・利用者ニーズに対応したプログラムの変革											
計画	全体 検討		チーム内検討				チーム内検討	チーム内検討		作品展 参加	チーム内検討	
	●サービスの質の向上											
	全体 検討			チーム内検討					チーム内検討			
画	●収支改善・・・目標稼働率の確保											
	チーム内検討		チーム内検討		チーム内検討		チーム内検討		チーム内検討		チーム内検討	
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
●人材育成 ・職員個々が個人目標を設定し、外部の研修に参加する ・年間のスケジュール管理を行い、参加できるように調整を行う ・利用者の重度化・高齢化に対応する支援体制を強化する							・全職員が参加できるように、4月中に年間の研修スケジュールを作成する ・毎月の職員会議で、研修内容・資料を回覧し、全職員に周知する					
●人権擁護 ・虐待防止及び身体拘束廃止への体制整備を行う ・職員の支援技術、知識の向上を推進する							・毎月の委員会で、日常支援の振り返りを実施する ・4月、3年目までの職員と面談、必要な知識・技術を確認 ・5月以降、外部関係機関の研修受講計画を作成する					
●日中活動の充実 ・利用者ニーズに対応した日中活動プログラムの変革を検討する ・様々な機会に、利用者の作品をアピール。地域とのつながりを体感できるように努める							・4月 生活環境の整備し、5月以降、活動環境を新たに確保していく ・6月 他施設への見学を打診し、実施していく					
●施設支援力の向上 ・重度障害者、強度行動障害者への支援力向上のため、研修に参加し、職員の知識や技術を高める ・医療的なケアが必要な方の受入れ							・5月までに、養成研修(強度行動障害者養成研修、中核人材養成研修等)の対象職員を選定する					
●収支改善 ・目標稼働率の確保のために、利用者増を図る ・職員の専門性を向上させ、獲得可能な加算を取得していく ・支出の見直しを行う							・5月 近隣区の相談支援事業所・特別支援学校へ訪問。施設をアピールし、連携することで、利用者増を進める ・作品展等に参加し、施設を外部にアピールしていく ・作品完成にむけて、4月より作品完成に向けた計画を立てる ・毎月の会議で収支の情報共有を図り、職員の意識づけを行う					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 心身障害者福祉会館 生活介護

目標稼働率 83.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 ①喀痰吸引・経管栄養実施の研修 ②強度行動障害研修(基礎)											
					喀痰吸引・経管栄養実施の研修(基礎修了)					喀痰吸引・経管栄養実施の研修(実践修了)		
					強度行動障害研修(基礎修了)			強度行動障害研修(実践修了)		強度行動障害研修(実践修了)		
	●余暇活動の充実 園芸ボランティア 生産活動 園芸ボランティア 生産活動 音楽ボランティア 生産活動 園芸ボランティア 生産活動 音楽ボランティア 生産活動 園芸ボランティア 生産活動 音楽ボランティア 生産活動 園芸ボランティア 生産活動											
	●収支改善 生活介護会議(当初計画) (点検・課題抽出と対策)											
稼働率	●イベント 会館まつり実行委員会 会館まつり実行委員会 会館まつり実行委員会 会館まつり 館外活動 館外活動 トットフェス 館外活動 事業説明会 クリスマス忘年会 障害者作品展 館外活動 館外活動 館外活動											
	事業説明会											
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
●人材育成 ・医療的ケア対象者の受け入れ ・重度障害者支援の強化と充実							・4月より2名の医療的ケアが必要な利用者の受入れを行う ・職員1名が研修に参加し、喀痰吸引・胃ろうの支援をするための資格を取得するほか、職員2名が研修に参加し、強度行動障害者の支援をするための資格を取得する					
●余暇活動、地域交流の充実 ・ボランティアの活用 ・生産活動を通じたプログラム提供							・園芸と音楽ボランティアの各関係者と連携を取り、計画した活動の提供を実施する ・販売を見据え、体験の機会としてもメモ帳とバスボムの作製活動を進める					
●収支改善 ・毎月の会議で、状況の確認と対応策の検討。							・職員全員で現状の把握と課題抽出を行い、役割分担を決めて対策に取り組む					
●イベント ・会館まつり ・障害者作品展 ・館外活動 ・事業説明会							・7月の会館まつりは、4月～6月に月1回の実行委員会で各関係者との連携し実施する ・4月と11月に事業説明会を実施する ・行事を年間予定に添って実施する ・11月に開催される、品川区障害者作品展に参加する					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 会館 自立訓練

目標稼働率 55.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 高次脳機能障害支援者養成研修等の研修への参加 											
	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的な支援・訓練プログラムの提供 自立度評価指標等の活用 											
	<ul style="list-style-type: none"> ●収支改善 関係機関との連携強化 											
	訓練センター会議 (当初計画) (点検・課題抽出と対策) (点検・課題抽出と対策) (点検・課題抽出と対策)											
稼働率	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント 会館まつり実行委員会 											
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 ・高次脳機能障害支援者養成研修等の研修への参加 							<ul style="list-style-type: none"> ・「障害特性の理解向上の取り組み」研修に参加する ・7月 高次脳交流会に参加する ・10月 高次脳合同講演会に参加する ・8月までに高次脳機能障害支援者養成研修に参加する ・1月 高次脳症例検討会に参加する 					
<ul style="list-style-type: none"> ●効果的な支援・訓練プログラムの提供 ・自立度評価指標等の活用によるサービスの質の向上 							<ul style="list-style-type: none"> ・4月から全職員が評価表を有効に活用するための研究を行い利用者支援に活用する 					
<ul style="list-style-type: none"> ●収支改善 ・関係機関との連携強化 ・毎月の会議で、状況の確認と対応策の検討 							<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、事業所の利用状況を関係機関に発信する ・職員全員で現状の把握と課題抽出を行い、役割分担を決めて対策に取り組む 					
<ul style="list-style-type: none"> ●イベント ・会館まつり 							<ul style="list-style-type: none"> ・会館まつりは、4月～6月に月1回の実行委員会で各関係者との調整・連携、会館まつりを実施する 					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 品川区旗の台障害児者相談支援センター

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	<p>●人材育成「東京都相談支援従事者初任者研修」受講促進 <small>研修案内を総務課と共有</small> 申込開始</p> <p>●職員の自己管理意識を高め、可能な限り超過勤務時間を削減する。 <small>事業所の目標説明</small> <small>半期の状況を説明</small></p> <p>●相談支援技術の向上 <small>合同会議</small> <small>合同会議</small> <small>合同会議</small> <small>合同会議</small></p> <p>●関係機関との連携強化 <small>拠点連絡会</small> <small>拠点連絡会</small> <small>拠点連絡会</small> <small>拠点連絡会</small> <small>拠点連絡会</small> <small>拠点連絡会</small></p> <p>※区主催の「相談支援連絡会」「スキルアップ研修」「自立支援協議会」「各部会」への参加</p> <p>●収支改善 支援C会議</p>											
	稼働率											
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 ・法人内で計画的に、「東京都相談支援従事者初任者研修」受講を促進する							・法人として研修受講を勧めていく ・年度当初に研修の受講を促し、年1～3回外部研修に参加できるようにする					
●業務改善 ・職員の自己管理意識を高め、可能な限り超過勤務時間を削減する							・予定職員数を確保していく。 ・年度初めに事業所としての目標を示し、中間で状況を報告することで職員の意識づけを行う					
●相談支援技術の向上 ・定期的に法人内の相談支援事業所合同の会議を開催し、乳幼児期から高齢期までのライフステージ毎の制度や支援について学ぶ場を設ける							・年間の計画の中に事業所として学ぶ場を計画的に入れる ・各自に研修参加を促し、ステップアップできるようにする					
●関係機関との連携強化 ・自立支援協議会、各部会、連絡会、スキルアップ研修などに出席し、他事業所との連携強化に努める							・支援センター内で担当者が出席した後に、全体に周知することを徹底する					
●収支改善 ・認定調査、計画相談を確実にし、計画通り収入を確保する ・超過勤務を今年度と同様、または削減できるように職員の意識を高める							・業務遂行のため、相談員の配置は必須事項であり、予定人員を確保するため、有資格者を中心に職員募集を行う					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 障害者計画相談支援事業所(中延・大井第二・八潮)

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成「東京都相談支援従事者初任者研修」受講促進 研修案内を総務課と共有 申込開始 ●職員の自己管理意識を高め、可能な限り超過勤務時間を削減する 事業所の目標、方針説明 職員に半期の状況を説明 ●相談支援技術の向上 合同会議 合同会議 合同会議 合同会議 ●関係機関との連携強化 ※区主催の「相談支援連絡会」「スキルアップ研修」「相談支援部会」「地区ケア会議」などへの参加 ●収支改善 支援C会議 												
	<p>→</p>												
	稼働率												
	事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・法人内で計画的に、「東京都相談支援従事者初任者研修」受講を促進する。 ・経験年数に合わせた法人指定研修の他、職員個々の目標に合わせ外部研修の受講を推進する ●業務改善 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の自己管理意識を高め、可能な限り超過勤務時間を削減する ●相談支援技術の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に法人内の相談支援事業所合同の会議を開催し、乳幼児期から高齢期までのライフステージ毎の制度や支援について学ぶ場を継続する ●関係機関との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護支援センター等、関係機関と連携しながら共通認識を高める ・相談支援部会、連絡会、スキルアップ研修、地区ケア会議などに出席し、他事業所との連携強化に努める ●収支改善 <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の状況を確認し合う 							<ul style="list-style-type: none"> ・法人として研修受講を勧めていく ・年度当初に研修の受講を促し、年1～3回外部研修に参加できるようにする ・毎月の会議で各事業所のケース数を確認する ・超過勤務申請時に、業務の進捗状況を確認する ・年間の計画の中に事業所として学ぶ場を計画的に入れる ・各自の研修参加を促し、ステップアップできるようにする ・月1回の会議の中で、会議の内容を全体に周知し、共有する ・毎月の会議の中で、次月のケース数の確認を行う ・各事業所のケース数を確認しながら、区役所・拠点事業所に移行ケースの相談を行う 					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 品川区障害者地域活動支援センター

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成		他事業所見学⇒	※随時実施								
	●手話通訳者全国統一試験への移行	対策講座打ち合わせ	対策講座準備			対策講座	対策講座	対策講座		統一試験		
	●障害者区民のニーズ把握	年間予定作成										
	●新規登録者	実施案内周知		実施案内周知		実施案内周知		実施案内周知		実施案内周知		
	●収支改善		事業内容の見直し	予算要望								
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策				備考	
●人材育成 ・他事業所の見学、事業に係る研修への参加を促し、新しい発想や知識・技術を身に付ける ・各職員の業務分担を見直し、新しい業務を身に付けていく。							・4月、年間計画で施設見学、研修計画を立てる ・新年度に向けて業務分担を見直す					
●意思疎通支援事業に関する変更に関わる準備 ・手話通訳者全国統一試験への移行準備(区民への周知・対策講座の開催など)							・12月の統一試験導入に向けて、4月から関係機関と対策講座の内容等について検討する					
●障害者、区民のニーズ把握 ・各種サロン、様々なワークショップを開催し、次年度の教室、講習会の内容検討に繋げる							・年間計画作成時に予定を入れ、計画的に実施する ・所管課や関係機関との情報交換を密に行う					
●新規登録利用者を増やす。 ・ワークショップやサロンの案内を登録者以外にも周知し、事業の認知度を高め、利用登録に繋げる							・若い世代の障害者向けのワークショップを行い、事業を知ってもらう					
●収支改善 ・次年度の事業を見込んだ予算要望を行う							・予算要望に向けて(6月)、次年度の事業内容を検討していく					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 福祉工場しながわ

目標稼働率 72.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 年間計画立案		視察等実施			進捗確認	改善策実施					検証・効果測定
	●プチレーブ店舗を移転し、営業を軌道に乗せる。(収支改善を進める) 移転計画詳細作成					改装、設備移転設置		店舗移転 移転先で営業				
	●収支改善を進める。 経営改善計画立案					進捗確認	改善策実施					検証・効果測定
	●従業員、利用者の知識及び能力の向上に向けた取り組みを進める。 従業員、利用者研修計画立案					進捗確認	改善策実施					検証・効果測定
	●地元企業との連携を進める等、地域連携活動を強化していく。 地域福祉課と連携、立案							紅葉祭り等で実践				
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成(安心な職場環境の基礎となる支援力を向上させる。当年度の制度改定対応) ・福祉工場しながわの主要3事業を主体的に推進でき、事業の継続性を高められる人材を育成する ・コアとなる職員が、業務管理、顧客管理、収支改善などトータルに進められるように育成する							・計画的に育成を進めるために、育成時間・機会の設定に努める ・当年度は先進事業等の外部視察などを実施し、情報収集、視野拡大を進める					
●プチレーブ工場、店舗を移転し、営業を軌道に乗せる ・事業の継続性が担保できる移転先を決定し、必要な改装を行い、移転させる。現状の納入先、外部販売の機会を堅持し、更に拡大を進める ・移転先の状況により顧客調査等を行い、パンの種類、製造・販売方法を検討し試行する							・パン製造、販売方針の転換も視野に入れ、検討を進める必要がある ・移転先の状況により顧客調査等を行い、パンの種類、製造・販売方法を検討し、さらに収益性を高め、従業員の増員等の事業展開に備える					
●収支改善を進める ・生産活動収支の状況が健全であることが従業員、利用者の賃金等の確保に大きく影響するため、各事業の収益性、継続性を高めるべく経営改善計画をたて、PDCAサイクルを進める							・第一業務(清掃) 清掃要員の確保、第二業務(製パン)パン工場、店舗移転に伴う業態変革、第三業務(製陶)増産体制の強化、品質改善等、各課題の解決を目指す					
●従業員、利用者の知識及び能力の向上に向けた取り組みを進める。 ・当年度の制度改定に則り、当事業が従業員、利用者の知識及び能力の向上を図る ・一般就労に向けた意欲の創出や社会参加は重要課題とする							・一般就労に向けた意欲向上が進まない現状を踏まえ、社会参加機会の設定を検討し、実施、効果を検証する					
●地元企業との連携を進める等、地域連携活動を強化していく。 ・事業展開の中で従業員、利用者との接点を作り、地域での利用者の活躍の場を広げる ・事業所における地域と連携した事業や取り組み(地域連携活動)を企画し実施する ・地元企業との連携した高付加価値の商品開発等を検討する							・利用者と地域の接点の設定が重要であるため、地域福祉課と連携し、企業ボランティアとの協働体制の確立を進める					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 なぎさの家

目標稼働率 100.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 現任研修実施 ●収支改善 ●利用者の高齢化対応 日中活動先との個別支援計画のすり合わせ ●地域との連携 地域連携推進会議開催要項作成 構成員選定 											
	現任研修実施						モニタリング					
	地域連携推進会議開催要項作成 構成員選定						地域連携推進会議開催					
	稼働率											
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 共同生活援助事業を的確に理解し、適切な利用者支援を進められる人材を育成する							・人材の確保が喫緊の課題であり、年度当初から世話人候補者を募集し、現任研修等で指導していく					
●収支改善を進める							・稼働率管理が難しいため、効率的な手法について検討する					
●利用者の高齢化対応を進める ・医療機関や日中活動事業との連携を強化し、高齢化により必要となる情報の共有化、早期対応を進める							・サービス管理責任者、生活支援員の育成が必要であり、重度化対応、基礎医療知識の研修参加を積極的に進める					
●地域との連携(新規・制度改定対応) 事業運営の透明性を高め、支援の質の確保に向け地域連携推進会議を開催する							・会議構成員の選定が鍵となる ・年度前半に構成員を選定し、後半に会議体を設立する					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 さつき

目標稼働率 98.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 学習会 ●人材確保と職場環境の整理 サポしながわ登録内容確認 ●人権擁護研修への参加 ～ 東京都福祉保健局・東社協・SELP協・都通研などの人権擁護研修や虐待防止関連の外部研修参加(通年) ～ ●安定的な利益の追求 東京都SELPセンター運営委員会への参加 ●収支改善 試算表の分析(通年) 												
	<ul style="list-style-type: none"> ●人材確保と職場環境の整理 ・サポしながわへの登録と働きやすい職場環境の整理 ・時間内で仕事を終える事が出来る施設運営を行い、職員が安心して心身共に健康で働ける職場環境を作る ●人権擁護研修への参加 ・人権擁護を最優先にし、職員の利用者支援技術や専門性、人間性の向上を図る ・東京都福祉保健局や東社協、SELP協などの人権擁護研修や虐待防止関連の外部研修へ積極的に参加を促す ●安定的な利益の追求 ・東京都優先調達カタログへの登録、東京都共同受注窓口である東京都SELPセンターでの活動を通して新規作業を獲得していく ●収支改善 ・稼働率の向上を目指し、工賃額向上に努め、安定的な施設経営を行う 												
	事業の概要						執行上の課題および改善策						備考
	<ul style="list-style-type: none"> ●人材確保と職場環境の整理 						<ul style="list-style-type: none"> ・適正な人材を確保、育成する必要がある ・年度当初に必要な人材を確保し、毎月の職員会議等で職場運営チームワークの進め方を確認していく 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●人権擁護研修への参加 						<ul style="list-style-type: none"> ・ふくなび等からの情報をタイムリーに共有する必要がある ・外部研修に年間を通じ職員を参加させ、受講後職員会議等で情報共有を図る 						
<ul style="list-style-type: none"> ●安定的な利益の追求 						<ul style="list-style-type: none"> ・情報確認や登録情報の更新が必要 ・常に情報収集を行い関係機関との連携を進める 							
<ul style="list-style-type: none"> ●収支改善 						<ul style="list-style-type: none"> ・就労会計について常に法に則った支出を意識する必要がある ・毎月収支状況を確認し、適正な予算執行を進める 							
稼働率													

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 八潮中央保育園

目標稼働率 100.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●職員の質の向上、階層別の役割認識の向上 全体会議にて、施設の方針を周知 各種会議 各種会議開催 各種会議・個別面談 各種会議・個別面談 各種会議開催 各種会議開催 各種会議開催 全体会議にて振り返り、次年度の方向性の確認 R7年度に向けての計画立案											
	●働きやすい職場環境づくり 全体会議にて、施設の方針を周知 専門委員会の立ち上げ 各種会議 全体会議にて振り返り、次年度の方向性の確認											
	●適切な感染症、事故防止対策 全体会議にて、施設の方針を周知 水遊びに関する事故防止、蘇生法研修 感染症防止研修 アレルギー、窒息事故等の事故防止、怪我の救急法											
	●イベント 対面式 親子交流会 宿泊保育 七タ・プール開き・ドーナツ祭 運動会 芋掘り遠足 触れ合い動物園発表会 クラス保護者会 お楽しみ会 お別れ遠足 お別れ会 卒園式											
	●収支改善 全体会議にて、施設の方針を周知 園児募集の呼びかけ、園見学やイベントへの招致(関係機関、近隣等) * 定員を満たすまで適宜実施											
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 ・法人職員としての意識の醸成を図る場を設ける。 ・職層に応じた役割分担、役割認識の図る。(各種会議の企画、参画) ・本人の希望を加味した研修への参加、職場への還元につ繋げる							・モチベーション・士気の不安定さ、マンネリ化⇒様々な方法で年間通して、伝え途絶えさせないようにする(4月全体会議、7~8月個別面談 10~12月現任研修 1月全体会議)					
●働きやすい職場環境づくり ・業務の手順や内容の整理による効率化 ・保育内容の工夫、環境の整備等を行い、ノンコンタクトタイムを確保 ・意見を交換し合える場の設定、常時、情報の共有や相互の思いの受け入れ、傾聴が出来る雰囲気づくりを目指す ・園内で使用する物品(オムツ、エプロン、タオル等)のサブスクリプション化、電子連絡帳化に向けて情報収集、検討を行う							・情報収集は、毎月1回の会議等での職員からのヒアリングや月に1~2回の各種会議にて行う ・様々な研修等で得た情報を隔月に会議等で検討する ・サブスク導入は、施行過程を6月までに集約し、11月までに内容を検討、1月に決定後、2月保護者会にて周知する ・費用対効果の検討を6月より開始し、予測ユーザー数や職員の業務軽減を試算の上、11月に継続的な利用を判断する					
●適切な感染症、事故防止対策 ・情報収集と各関係機関との連携強化 ・保護者への啓発 ・実践に活かせる研修の実施							・職員が保育課等から得た情報をし共有し、支援の現場や、保護者への啓発につ繋げる					
●収支改善 ・園児募集の呼びかけ(法人内外) 定員を満たすまで実施。 ・園見学、イベント等の企画、招致、子育て世代への啓発活動							・園児の募集については、4月からのHPへの掲載、施設内外にポスター掲示する ・6月以降の募集状況により、区内及び八潮地域の子ども数、世帯の推移について情報を集め、先を見据えた運営を検討する					・区内園児の状況によっては次年度以降の定員変更も視野に入れる

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 八潮北保育園

目標稼働率 95.0%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	<p>●人材育成⇒ 保育士としての基本的知識やスキルアップを図るとともに、障害特性や園児の特性を理解し、日々の保育に繋げる</p> <p>外部研修の機会を設定 学校心理</p> <p>●働きやすい職場づくり⇒ 業務マニュアルの活用と内容を統一する事で均一の取れた業務遂行を行う</p> <p>業務マニュアルの活用開始 チーム検討 </p> <p>サブスク検討委員会 サブスク検討委員会 </p> <p>●感染症対策 ⇒ 毎月来る嘱託医との情報共有と、情報収集を行う</p> <p>●行事 ⇒ 日本の伝統行事を伝え、保護者と子ども、保育士の交流を深める。子どもの成長を確認する</p> <p>全体保護者会 子どもの日 </p> <p>園外保育 </p> <p>●収支改善 ⇒ 一時保育を行う</p>											
	後 進 率											
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
<p>●働きやすい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員体制を整え、安心で落ち着いた環境づくりを行う ・業務マニュアルの活用と見直しを行う 作業の内容や進捗状況の見える化する事で均一の取れた業務遂行を行う 適宜、必要なマニュアルの見直しと作成を進める ・ICT・サブスクの活用方法と定着を進める 							<ul style="list-style-type: none"> ・人員体制については、4月より不足時間の洗い出しを行い、6月には勤務体制や定員の見直しを進め、保育補助の活用方法を検討し、並行して保育士の募集も行う ・下半期に向けて、派遣職員を導入して職員体制を整える ・サブスクの導入は、6月に保護者ニーズアンケート実施し、業者検討を経て、1月に業者決定する ・ICTに関しては、書式の見直しなど、令和6年度中にまとめる 					<ul style="list-style-type: none"> ・4月、新マニュアルの運用開始 ・9月、見直し、修正を行い、10月より再運用を開始する ・サブスク、ICTの運用開始は令和7年度を予定
<p>●専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修の機会を設定し、キャリアアップ研修を始め必要な研修を受けるよう進め、職員の専門性の向上に努める ・保育士としての基本的知識やスキルアップを図るとともに、障害特性や園児の特性を理解し、日々の保育に繋げる 							<ul style="list-style-type: none"> ・5月より研修希望をまとめ、保育課から出る上半期の研修内容から参加研修を決定し、随時申込を行う ・9月より、キャリアアップ研修の申込、対象者を選定する 保育課から出る下半期の参加研修を決定し、随時申込を行う ・1月以降おこなわれる、宿舍借り上げ者対象研修に参加する ・年間を通して、区立園看護師の勉強会の参加する ・6月・11月・1月に児童学園をはじめ、ちびっこタイム・LITALICOの見学を実施する 					<ul style="list-style-type: none"> ・学校心理(年4回) ・臨床心理(年2回)
<p>●感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止のための情報収集、自治体や医務と連携しての取り組み、保護者への協力要請、啓発に努める 							<ul style="list-style-type: none"> ・毎月来園される酒寄先生との情報共有 ・毎月行う職員会議で職員との情報共有 ・園の感染状況をその都度保護者向けにお知らせを掲示 ・公立保育園看護師連絡会での情報収集 					

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 八潮わかさ荘

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成 → 入居者の情報共有											
	●BCP訓練 60号棟との総合防災訓練											
	●定期清掃等 福祉工場による定期清掃(毎日)											
	●設備等保守管理											
	●収支改善 → 共益費による定期的な収入と委託費による運営 共益費(毎月)											
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 ・入居者の相談等の対応は管理職が窓口となっている。また夜間及び休日のワーカー(宿直者)の緊急対応に必要な情報共有をしている							・併設している在宅サービスセンターと在宅介護支援センター等関係機関と連携し、自立した在宅生活を継続できるよう支援する					
●BCP訓練 ・業務継続計画(BCP)に基づき、入居者の生活が継続できるように支援するとともに、総合防災訓練等参加を促していく							・例年5月の防災協定締結している60号棟との合同防災訓練と9月実施の地域総合防災訓練に入居者の積極的な参加を促していく					
●定期清掃等 ・福祉工場による定期清掃を実施							・福祉工場との意見交換を4半期ごとに実施する					
●その他 設備等保守管理 ・設備全般の老朽化が進んでおり、定期的な点検を実施 ・退去のタイミングで品川区施設整備課主導で給排水設備更新とキッチン・トイレ・洗面所のリフォームを実施する							・毎夕・朝の定期巡回により、詐欺や不審者の侵入防止等防犯につとめ、入居者が安心して生活できるよう支援する					
●収支改善 → 共益費(熱供給費用徴収)による定期的な収入と委託費により運営している												

令和6年度 年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 大井倉田わかさ荘

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	●人材育成⇒入居者の情報共有											
	●BCP訓練											
	●定期清掃等 福祉工場による定期清掃(毎月)											
	●その他 建物外装等の目視点検											
	●収支改善⇒共益費による定期的な収入と委託費による運営											
稼働率						共益費収入						共益費収入
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
●人材育成 ・施設の管理職が主な窓口になっており、事業所内の職員達には住民の情報共有にとどめている							・併設している、在宅サービスセンターと在宅介護支援センターとも居住者の基本的な情報を共有し、自立した在宅生活が出来るよう支援する					
●BCP訓練 ・業務継続計画(BCP)に基づき、住民の生活が継続できるように支援するとともに、定期的な防災訓練への参加を促してゆく							・5月に居住者と面談し、災害時の行動について個別に情報提供し、非常食などの備蓄などを確認してゆく					
●定期清掃 ・福祉工場による定期清掃を実施(雑草除去、建物廊下部分やドアの清掃、ゴミ収集所の清掃等) ・造園会社に再委託した植栽の伐採							・定期清掃は毎月実施するため、その都度特別に清掃が必要な箇所を伝える ・植栽の伐採は10月から11月に実施するため、9月には予約を入れる					
●その他 ・設備老朽化が進んでおり、退去のタイミングで、区の施設整備課主導で 給排水設備更新とキッチンのリフォームを実施する ・住民間の関係性を整えそるため、日頃からヒアリングを実施する							・毎夕の点検見回りによる情報収集や詐欺や不審者の侵入防止等防犯に努め、入居者が安心して生活を営めるように支援する					
●収支改善⇒共益費による定期的な収入と委託費による運営である。							・共益費を滞納する居住者もいるため、個別に訪問もしくは書面にて再請求を実施する					

令和6年度年間計画 進行管理表

様式1

事業所名 大井三丁目高齢者憩いの場

目標稼働率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年 間 計 画	<p>●人材育成と安定した運営(プログラムを企画・進行できる職員の育成)</p> <p>運営委員会開催 役割分担 分担して実行 運営委員会開催 運営委員会開催</p>											
	<p>●高齢者の健康維持と増進、介護・認知症予防の事業実施。</p> <p>定例教室は常時開催。</p> <p>新規募集教室は、①毎月募集②半期に一度募集③年3回募集</p>											
	<p>●高齢者・障害者・子育て世代・子どもの多世代事業で共助を育む。</p> <p>毎月募集</p>											
	<p>●地域交流の機会の創出</p> <p>企画準備 連絡調整 広報 広報 広報 広報 広報 広報 広報 広報 広報 広報 広報</p> <p>役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備 役割分担・準備</p> <p>こすもす パーティー開催 アンケート修正</p>											
	<p>●利用者の獲得</p> <p>毎月の広報</p>											
稼働率												
事業の概要							執行上の課題および改善策					備考
<p>●人材育成(プログラムを企画・進行できる職員の育成)</p> <p>・運営委員で、各プログラムの役割分担を行い、一部職員の負担にならないよう内容を把握、進行できるようにする</p> <p>・関係者との関わりを良好に継続できるよう、連携を図る</p>							<p>・大井三丁目を中心とした地域の高齢者等の活性化に向けて、所在地域の職員の連携が必要。3月の委員会で確認したことを、4月より分担し、引き継ぎながら事業を進める</p>					
<p>●高齢者の健康維持と増進、介護・認知症予防の事業実施</p> <p>・MCIプロジェクト園芸療法・ピンコロ道場・地域ミニデイ・自分力アップ講座・スマホ個別相談・脳活スマホ&iPad教室 等、講師との連絡調整・当日運営・準備から片付け・参加者の状況把握等</p>							<p>・多種多様な教室の開催を、分担し安定した執行を継続する</p>					
<p>●高齢者・障害者・子育て世代・子どもの多世代事業で共助を育む</p> <p>・ひなたぼっこで、料理と創作をテーマに毎月募集、開催</p> <p>・多世代交流を意識した支援と、世代間のギャップを超えて芽生える共助へのサポート</p>							<p>・その都度気づいた地域の課題の共有を行う</p>					
<p>●地域交流の機会の創出</p> <p>・こすもすパーティーの開催(地域のニーズをキャッチし、地域区民の交流を行う場の企画開催)</p>							<p>・内容について、6月までに企画し、区との確認を行う</p>					
<p>●利用者の獲得</p> <p>・新規利用者の獲得とニーズに応じたプログラム開催、飽きの来ない企画立案</p> <p>・プログラムや開催内容の広報・PR</p>							<p>・新規利用者獲得に向けた広報の工夫が必要であり、プログラムのネーミングの随時検討やチラシの作成を行う</p>					